



(写真) Confirmado “ロドリゲス暫定政権 Luis Pérez 副総裁を中央銀行総裁に任命”

2026年4月17日（金曜）

政治

- 「[暫定政権 中央銀行総裁の交代を発表](#)
～後任は副総裁から昇格、与党系統計学者～」
- 「[世界銀行もベネズエラとの関係再開を発表](#)」
- 「[暫定政権 保健相の交代を発表](#)」
- 「[ペトロ大統領 4月24日にベネ訪問を予定](#)」

経済

- 「[IMF 金融支援を行うことになるだろう](#)
～ロドリゲス暫定政権はIMFからの融資否定～」
- 「[ベネズエラのIMF関係再開で債券価格が高騰](#)」
- 「[UNDP 26年のベネGDP成長率7.4%増](#)」

26年4月18-19日（土・日）

政治

- 「[暫定政権 制裁解除求める抗議デモを開始](#)
～電力対策でSiemens、GEと直接協賛中～」
- 「[MCM氏 西マドリッド訪問し、歓迎受ける](#)」
- 「[EU 災害対策・経済成長のためベネへ支援金](#)」

経済

- 「[AA マイアミーカラカス間の航空運賃を公表](#)」
- 「[LVL氏 ベネズエラは世界で最も良い投資先](#)」
- 「[CENDAS-FVM 3月の基礎食糧費692ドル](#)」

社会

- 「[パスポートランキング 166カ国中43位](#)」

2026年4月17日（金曜）

政治

「暫定政権 中央銀行総裁の交代を発表

～後任は副総裁から昇格、与党系統計学者～」

4月16日 ロドリゲス暫定大統領は、ベネズエラ中央銀行（BCV）総裁を務めていた Laura Carolina Guerra Angulo 氏が辞任を表明したと発表。Angulo 氏の後任として Luis Pérez 氏（下写真の男性）を任命した。

Luis Pérez 新 BCV 総裁は、BCV の副総裁。

Angulo 総裁の後任に伴い、繰り上がりの昇格となる。

統計学に精通した経済学者で、「鉱物環境省の経済開発次官」「国営石炭会社 Carbozulia 社長」「社会経済開発銀行（Bandes）副社長」などを歴任。金融・鉱業部門に詳しいとされる。

4月14日 米国の「外国資産管理局（OFAC）」は、制裁ライセンス No.57 を発行し、BCV を制裁対象から除外することを決めた（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1357](#)」）。

そして、4月16日には IMF がベネズエラ政府との関係再開を発表（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1358](#)」）。この流れでの今回の人事交代となる。



（写真） Efectococuyo

実は、今回の発表の前から「トランプ政権がロドリゲス暫定政権に対して、BCV の制裁除外と IMF との関係再開を条件に BCV 総裁の交代を求めている」と報じられていた。

IMF との関係強化する上で、経済統計の公表を求められており、統計に詳しい人物を総裁職に据えた可能性が高い。

また、トランプ政権が BCV 総裁の交代を求めている理由は Laura Carolina Guerra Angulo 氏（下写真の女性）にもあるのかもしれない。

Angulo 氏は、2025年4月にマドゥロ大統領により総裁職に任命された。マドゥロ大統領の最初の妻の妹である。

マドゥロ大統領の関係者を政権から追い出したいというトランプ政権側の意向があった可能性もありそうだ。

「世界銀行もベネズエラとの関係再開を発表」

4月16日 世界銀行は声明にて、ベネズエラとの関係再開を発表した。発表声明は非常に短く、以下の通り書かれている。

「国際通貨基金（IMF）」の協議プロセスの結果を踏まえ、本日、世界銀行グループは、デルシー・ロドリゲス暫定大統領率いるベネズエラ政府との取引を再開すると発表した。

ベネズエラは1946年から世界銀行グループの加盟国である。ベネズエラとの取引は2019年に一時停止されており、最後の融資は2005年に行われた。

IMF とベネズエラ政府の関係再開が大きく報じられているためか、世界銀行とベネズエラ政府の関係再開について報じるメディアは少ない。

なお、IMF との関係再開の方がベネズエラ経済に与える影響は大きい。

IMF は債務再編、金融支援などベネズエラの致命的な問題に対処することが可能。

一方、世界銀行は、社会保障や貧困対策支援など中長期的な経済発展を促す後方支援的な役割が中心で、ベネズエラが抱える喫緊の課題に対処することを目的としていない。

STATEMENT | APRIL 16, 2026

World Bank Group Announces Resumption of Dealings with Venezuela

Washington, DC – April 16, 2026: Guided by the outcome of the International Monetary Fund's (IMF) polling process, the World Bank Group today announced that it is resuming dealings with the Government of Venezuela, under the administration of acting President Delcy Rodríguez. Venezuela has been a member of the World Bank Group since 1946. Dealings with Venezuela were paused in 2019, and the last loan was in 2005.

Contacts:

World Bank Media Relations: (202) 473-7660, press@worldbank.org

(写真) 世界銀行

「暫定政権 保健相の交代を発表」

4月17日 ロドリゲス暫定大統領は、Carlos Alvarado 氏（右写真の男性）を新たな保健相に任命した。

前任の Nuramy Gutiérrez 氏は26年1月に保健相に就任したばかりで、2カ月足らずでの交代となった（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1321](#)」）。

Carlos Alvarado 氏は2018年～22年にも保健相を務めていた。新型コロナウイルス（Covid-19）対策の陣頭指揮を執った人物である。

当時、ベネズエラは既に国際線が少なく、Covid-19 の流入経路が少なかった。加えて、マドゥロ政権が国民の移動を制限する強烈的な感染対策を執ったこともあり、他国と比べて Covid-19 の問題が小さかったとされる（「[ウィークリーレポート No.221](#)」）。



(写真) @delcyrodriguezv

「ペトロ大統領 4月24日にベネ訪問を予定」

4月17日 コロンビアのグスタボ・ペトロ大統領は、テレビのインタビュー番組に出演し、4月24日にベネズエラを訪問し、デルシー・ロドリゲス暫定大統領と会談することを明らかにした。

3月13日 ロドリゲス暫定大統領は、コロンビアでペトロ大統領との会談を予定していたが、前日に「不可抗力の理由」によりキャンセルとなっていた（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1343](#)」）。

今回はペトロ大統領がベネズエラを訪問する予定となっている。

ペトロ大統領は、現在ベネズエラ野党の指導者とされるマリア・コリナ・マチャド氏（MCM）について、

「MCM 氏のベネズエラ帰国はベネズエラの政治混乱を生む危険性がある」「ベネズエラ国民の中には MCM 氏が帰国することに強い恐怖を感じている人がいる」

「彼らの恐怖は、過去数年の間にベネズエラで起きた政治的な暴力の経験からくるものだ」

との見解を示した上で、ベネズエラの政治問題を解決するために

「初めに与野党の共同政府を発足し、1～2年ほどの期間を経て、双方の信頼を築いたのちに本当の意味での自由選挙を行うのが望ましい」との提案を述べた。

実現できれば素晴らしいことだが、実際のところ、MCM 氏とロドリゲス暫定政権が共同政府を発足するというのは相当に難しいと思われる。

経 済

「IMF 金融支援を行うことになるだろう
～ロドリゲス暫定政権は IMF からの融資否定～」

前号「[ベネズエラ・トゥデイ No.1357](#)」で紹介した通り、IMF はベネズエラ政府との関係再開を発表した。

4月17日 Kristalina Georgieva 事務局長は、記者会見を実施し、ベネズエラとの関係再開について口頭で説明した。

Georgieva 事務局長は、ベネズエラとの関係を再開する理由について、「政府機関が国際統計の共有を進めていること」「IMF 加盟国がベネズエラとの関係再開を支持していること」の2点を挙げた。

また、ベネズエラへの金融支援の可能性について聞かれると、「今後の方向性について合意に達することができれば、ベネズエラに対する財政支援プログラムを実施することになるだろう」と回答。金融支援の実施に前向きな意向を示した。

また、「IMF は、ベネズエラが将来的に資金調達手段を利用できるよう迅速に対応する」と言及。ベネズエラ問題に早急に対応する姿勢を示した。

IMF がベネズエラへの金融支援に前向きな姿勢を示す一方で、ロドリゲス暫定政権は IMF からの融資受け入れに否定的な見解を示している。

4月17日 ロドリゲス暫定大統領は、IMF がベネズエラ政府との関係を再開したことを祝福。

これにより、国外で凍結されていた資金を使用できるようになり、電力・水道などベネズエラの社会インフラを回復させることが可能になるとの見解を示した。

実際に IMF がベネズエラ政府との関係を再開することで、今後約50億ドルの「特別引出権（SDR）」が使用できるようになるとされる。

一方で、IMF からの融資受け入れについて「IMF からの借入計画は一切予定していない」とコメントした。

ベネズエラは債券だけでも1000億ドルを超える対外債務がデフォルト状態になっており、債務再編には IMF からの融資が必須とされる。

ロドリゲス暫定大統領のコメントが政治的なポージングからくるものなのか、あるいは債務再編の優先順位が低いというメッセージなのか判断し難いところである。

「ベネズエラの IMF 関係再開で債券価格が高騰」

前述の通り、債務再編については不透明感が残るものの金融市場は IMF とベネズエラ政府との関係再開について好意的に評価している。

4月17日 IMF とベネズエラ政府との関係再開発表を受けて、ベネズエラ国債・PDVSA 社債の市場価格は急騰した。

4月17日時点のベネズエラ国債の平均価格は1ドル当たり50.93セント。先週の同46.96セントから8.5%上昇した。

同日の PDVSA 社債の平均価格は、1ドル当たり49.81セント。先週の同45.87セントから8.6%上昇した。

なお、2025年12月末時点のベネズエラ国債の平均価格は1ドル当たり30.36セント。PDVSA 社債は32.91セント。この3カ月半は上昇が続いている。

「UNDP 26年のベネ GDP 成長率7.4%増」

「国連開発計画（UNDP）」は、2026年のベネズエラの経済成長率について、前年比7.4%増との予想を公表した。

石油分野では同11.5%増、産油量は日量121.1万バレル。2025年の日量108.1万バレルから12%増えると予想した。

非石油分野については前年比6.9%増とした。

また、インフレ率は前年比271.6%増と予想した。

UNDP は、「1月3日を機に構造的な変化が確認されており、この変化に伴いベネズエラ経済の状況について、石油部門を中心に大きく見直した」と補足している。

2026年4月18日～19日（土曜・日曜）

政治

「暫定政権 制裁解除求める抗議デモを開始

～電力対策で Siemens、GE と直接協議中～

4月19日 ロドリゲス暫定大統領は、スリア州を訪問。経済制裁の解除を求める抗議デモを開始した。

このデモはスリア州、タチラ州、アマゾナス州の3拠点から行進が始まり、最終的に首都カラカスで合流する予定となっている。



(写真) @delcyrodriguezv

スリア州を起点とする第1ルートは、スリア州→ファルコン州→ララ州→カラボボ州→アラグア州→ラグアイラ州→カラカスと行進を行う。

タチラ州を起点とする第2ルートは、タチラ州→メリダ州→トゥルヒージョ州→アプレ州→バリナス州→ポルトゥゲサ州→グアリコ州→カラカスと移動。

アマゾナス州を起点とする第3ルートは、アマゾナス州→ポリバル州→ガイアナエセキボ州→デルタアマクロ州→モナガス州→スクレ州→ヌエバエスパルタ州→アンソアテギ州→ミランダ州→カラカスと移動する。

これらの全ての工程は5月1日（労働の日）に完了する予定となっている。

ロドリゲス暫定大統領は、同日の政治集会にて「あらゆる制裁を1つ残らず撤廃させなければならない」と主張。

スリア州の電力システムを回復させるために「Siemens」 「GE」と直接協議を行っていると言及。

「ベネズエラは、我が国の50億ドルを取り戻すためにIMFと協議を行っている」とコメントした。

「MCM氏 西マドリッド訪問し、歓迎受ける」

現在、ベネズエラ野党指導者のマリア・コリナ・マチャド氏（MCM）は欧州を訪問しており、各国代表らと会合を行っている（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1357」](#)）。

4月18日 MCM氏は欧州訪問の一環としてスペイン（マドリッド）を訪問し、スペイン政界や在留ベネズエラ人社会から歓迎を受けた。

同日、マドリッドの José Luis Martínez-Almeida 市長（国民党所属）は、MCM氏に「市の黄金の鍵（Llave de Oro）」を授与した。

これは都市への功績者や特別来訪者に贈られる顕彰で、マドリッド市として MCM氏に対する連帯姿勢を示す意味合いを持っている。



（写真） José Luis Martínez-Almeida 市長 X

更に、Isabel Díaz Ayuso マドリッド州首相（国民党所属）は、州政府本部で MCM氏にマドリッド州金メダルを授与した。

州政府は授与理由について、民主主義、人権、自由の擁護に向けた「たゆまぬ努力」を評価したとしている。



（写真） Isabel Díaz Ayuso マドリッド州首相 X

スペインの国民党（PP）は、右派系で MCM 氏を支持する政党。

一方、現在スペインの与党となっているサンチェス政権は左派系「社会労働党（PSOE）」で MCM 氏とは微妙な関係にある。MCM 氏は、サンチェス首相との会合は予定していないと説明している。

「EU 災害対策・経済成長のためベネへ支援金」

4月18日 「欧州連合（EU）」は、スクレ州およびヌエバエスパルタ州の一部地域で深刻化する水不足被害への対応として、15万ユーロ（約17.5万ドル）の緊急支援を実施すると発表した。

26年2月 スクレ州・ヌエバエスパルタ州で豪雨があり、水道システムが打撃を受け、一部世帯で衛生的な水へのアクセスが出来なくなっている。

今回の支援金は、給水体制の改善や影響住民への支援に充てられる見通しで、被災地の生活インフラ改善が期待される。

EU のベネズエラ担当官は、今回の支援により1.8万人の生活改善に貢献できると説明している。

また、EU はベネズエラの持続可能な開発を促進するプロジェクトに対して、890万ユーロ（約1040万ドル）の支援を行うと発表。

循環型経済の推進および不可欠な基礎サービスへのアクセス改善を目的とするプロジェクト募集を開始すると発表した。

プレスリリースによると、同資金は2つの分野に割り当てられるという。

1つ目は、循環型経済分野で、資源の持続可能な管理、廃棄物の削減、循環型モデルを採用する社会的起業への支援を促進する事業が対象となる。特に女性や若者が主導する取り組みを重視するという。

2つ目は、基礎サービスへのアクセス改善分野で、脆弱な地域における飲料水、衛生設備、基礎エネルギーなどへのアクセスを、公平かつ持続可能な形で改善することを目指すという。

経 済

「AA マイアミーカラカス間の航空運賃を公表」

米国航空会社「American Airlines（AA）」（正確には AA の子会社 Envoy Air）は、4月30日からマイアミーカラカス間の運航を再開する（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1355](#)」）。

この発表時点ではチケット料金が明らかになっていなかったが、4月18日に同区間のチケット料金が報じられた。

最初の便は、4月30日（木曜）午前10時15分マイアミ発ー同日の午後1時35分カラカス着。カラカスからの出発便は、4月30日（木曜）午後2時40分発ー午後6時13分マイアミ着の予定となっている。

同区間のチケット料金は往復で1174.33ドルから（帰りの便により料金は前後）。

なお、飛行機に乗っている時間は3時間半となる。

「LVL氏 ベネズエラは世界で最も良い投資先」

世論調査会社「Datanálisis」の社長で著名エコノミストの Luis Vicente León 氏（LVL）は、現地経済メディア「Bancaynegocios」のインタビューにて、現在のベネズエラについて「この瞬間、世界で最良の投資先」との見解を示した。

LVL 氏は、ベネズエラが世界最大級の石油埋蔵量を有するほか、西半球最大級の GOLD 資源、さらに将来的な天然ガス開発余地も備えていると指摘。

「投資を呼び込む能力がある」と述べ、資源国としての潜在性の高さを改めて訴えた。

石油部門については、生産回復が進んでいるとし、原油輸出量は現在日量 80～85 万バレル程度と説明。

2026 年第 1 四半期には 21 億ドルの資金流入があったと説明し、足元の経済実態は極めて良好とは言えないものの、「状況は変わっていく」との見通しを示した。

また、中東情勢を背景とした原油価格上昇にも言及し、原油価格の高止まりがベネズエラ経済を後押しするとの見方を示した。

「CENDAS-FVM 3月の基礎食糧費 692ドル」

ベネズエラの物価調査を行っている団体「Cendas-FVM」は、2026年3月の基礎食糧費（5人家族が通常の食事を摂るために必要な費用）について、月額 692.3 ドルとの調査結果を発表した。

同団体が行った2月の調査では月額 645.6 ドルだったため、ドル建てで見ると先月比 7.24% 増ということになる。

また、同項目に含まれていないが、生活に必須となる「衛生的な水」を追加すると 703.11 ドルになるという。



（写真）CENDAS-FVM

社 会

「パスポートランキング 199カ国中43位」

世界のパスポートをランキング化している「Henley Passport Index」は、2026年の調査結果を公表した。

同インデックスによると、ベネズエラのパスポートでの入国に際して事前のビザ取得を義務付けている国は 83 カ国。116 カ国がベネズエラのパスポートでの入国に際してビザの取得を要求していない。

ランキングでは、ベネズエラは 199 カ国中 43 位。この順位は前回から 2 位上昇したものの、2006 年当時の 25 位と比べると大きくランクダウンしている。

なお、日本は 199 カ国中 2 位で 187 カ国が日本のパスポートでの入国に際してビザの取得を要求していないという。

以上